

産学の人的交流促進

岩田 彰

名古屋工業大学大学院工学研究科

■ 東海支部のプロフィール

情報処理学会東海支部は、愛知、岐阜、三重、長野、静岡の各県で活動する会員により構成されている。会員数は1,636名であり、そのうち正会員が1,382名、学生会員が254名である。また、賛助会員は31社である（いずれも2008年8月15日現在）。会員数では、本部（約1万1千人）、関西支部（約2千4百人）に次ぐ3番目の所帯である。

■ 学際交流を高める講演会

平成19年度は7回の講演会を企画し、実施した。今年度は6回の講演会を実施予定である。昨年度開催した講演会の講師と演題を開催順に下に示す。

1. 田中穂積氏（中京大学教授）「ソフトウェアロボットー計算ロボット学」
2. 長尾確氏（名古屋大学教授）「Webコンテンツの高度利用ーアノテーションとトランスコーディングー」
3. 小澤和弘氏（岐阜県立看護大学講師）「医療情報システムと情報セキュリティ」
4. 竹内義則氏（名古屋大学准教授）「画像処理による物体追跡」
5. 和田浩之氏（中部電力主任）「アフリカゾウの会話を覗く」
6. 李晃伸氏（名古屋工業大学准教授）「実環境で柔軟な対話を実現するキャンパス音声情報案内端末の構築」
7. 吉川大弘氏（名古屋大学准教授）「データの可視化」

情報処理がかかわる分野の多様性を反映して、講演内容も多岐にわたっている。いずれの講演も盛況であり、平均の参加人数は約42名であった。各会場には企業と大学の双方から参加者があり、産学交流の場としても有効に機能している。

■ 連合大会の新機軸：産学連携タイムゾーン

平成20年9月18日（木）・19日（金）の2日間、情報処理学会東海支部が主担当学会として、愛知県立大学に

て電気関係学会東海支部連合大会を開催した。愛知県立大学は2005年に愛知万博が開催された長久手市に位置する大学で、日本初の実用的なリニアモーターカー「リニモ」の愛・地球博記念公園駅から徒歩5分、名古屋駅からは約60分の立地である。当日は台風余波による雨で天候には恵まれなかったが、口頭発表とポスター発表をあわせた一般講演が617件、参加者数は約1,200名と盛会であった。電気関係学会東海支部連合大会は毎年開催されており、主催は電気学会東海支部、電子情報通信学会東海支部、情報処理学会東海支部、照明学会東海支部、映像情報メディア学会東海支部、日本音響学会東海支部、電気設備学会中部支部、IEEE名古屋支部である。主担当学会は、電気学会東海支部、電子情報通信学会東海支部、情報処理学会東海支部が順に担当している。

例年、東海支部連合大会の講演者や参加者の多くは大学教員と学生であるが、本年度は、大学からだけでなく、産業界からもより多く参加していただくことを目指して新たな企画を取り入れた。本大会は、本来、企業にとっても、地元で積極的な研究活動を行っている学生と出会うことのできる貴重な機会のはずなので、この趣旨に沿い、大会初日の午後を「産学連携タイムゾーン」と名付け、特別講演、シンポジウム、懇親会を連続して開催することとした。産業界の方々が関心を持ちやすいイベントを時間的に集中させることにより、産業界の方々の参加を促そうという目論見である。また、今年初の試みとしてチュートリアルを開催した。一般講演やシンポジウムでは各分野の最先端の話題が発表されることが多いが、チュートリアルでは各分野の基礎的で重要な事柄の解説を行うものである。これも産業界の方々を中心とする新規の参加者開拓を目指した企画であった。

特別講演では、トヨタテクニカル ディベロップメント 常務取締役（前・トヨタ自動車 理事知的財産部主査）の江崎正啓氏に「自動車産業の研究開発と知的財産戦略」のご講演をいただいた。特許のポートフォリオや経営・技術・知財の各戦略間の関係などについて解説がなされ



図-1 電気関係学会東海支部連合大会における Matlab 実習の様子

たあと、トヨタ自動車の創業者・豊田佐吉の言葉「研究と創造に心を致し常に時流に先んずべし」で締めくくられた。知的財産戦略については大学関係者の関心も強く、質疑応答の際には知財・教育・研究の関係について活発な意見交換がなされた。

シンポジウムは、電気学会、電子情報通信学会、情報処理学会の各東海支部が1件ずつ企画した。シンポジウムのテーマ設定の際には、各シンポジウムが「産学で社会的技術課題を共有するための場」となるよう各学会東海支部が配慮した。その結果次の3テーマでシンポジウムが開催された。

1. 高精度モーションコントロールの最新技術
2. 高度情報化社会における撮像及び画像デバイスの基盤技術の現状と課題
3. 長寿福祉社会のための基盤技術の現状と課題

上記3テーマのうち情報処理学会東海支部が企画したのは3番目のシンポジウムであり、下記5件の講演がなされた。

1. 鈴木琢治氏(東芝研究開発センター)「生体センシングシステムの現状と課題」
2. 山下勝司氏(トヨタ自動車)「介護ロボットの現状と課題」
3. 玉城幹介氏(NTTサイバーソリューション研究所)「ライフサポートシステムの現状と課題」
4. 小出公平氏(ITS ジャパン)「ITSの現状と課題」
5. 田中芳則氏(なごや福祉用具プラザ)「高齢者や障害者に優しい情報基盤の充実」

いずれも各分野の第一線で活躍されている講師による講演であった。また、各講師の専門分野はそれぞれ異なっていたため、同一のテーマについてさまざまな視点からの知見を得ることのできるシンポジウムとなった。このように多様な視点からの知見を得ることができるのは、「連合」大会の醍醐味の1つであろうと考える。

チュートリアルは3件開催された。チュートリアルについても、シンポジウムと同様に、電気学会、電子情報通信学会、情報処理学会の各東海支部が1件ずつ企画

した。

1. 多彩な魅力を持つ熱プラズマ・アーク放電
2. アンテナの基礎と応用
3. Matlab 実習：音声スペクトル解析

情報処理学会東海支部が企画したのは3番目のチュートリアルであり、愛知県立大学のご好意によりコンピュータ演習室をお借りして、実機を使った Matlab のチュートリアルを実現することができた。講師は南角吉彦氏(名古屋工業大学助教)に依頼した。Matlab の初学者を対象とし、参加者は自らの音声をヘッドセットにより入力し、その音声信号の処理を通じて Matlab の操作を体験した。図-1 にチュートリアルの様子を示す。Matlab に関心はあるものの使ったことのない人が多数参加していた。実機を用いた実習であったこともあり、好評であった。

■ 地域に根ざした学術文化の発展へ

冒頭に述べたとおり、東海支部の目的は東海地区における学術文化の発展に貢献することである。学術の知見や技術は個人に付随するものであり、地域における学術文化の発展には個人間の交流が不可欠である。これからも講演会や他学会との交流事業を積極的に開催し、東海地区における人的交流を活性化させ、学術文化の発展に寄与していきたい。

(平成 20 年 10 月 17 日受付)

○ 情報処理学会東海支部 Web ページ

<http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/>

岩田 彰 (正会員)

iwata@nitech.ac.jp

1975 年名古屋大学大学院修了、同年名古屋工業大学助手、1993 年同大学教授、2002 年同大学副学長(専任)、2004 年同大学院教授、現在に至る。受賞歴としては 1998 年本会 Best Author 賞受賞など、工学博士。